

広報 なかわだ

第 396号

1 月の予定

神の母聖マリア	1 日 (火)
教会委員会	13 日 (日)
信徒の会 例会	20 日 (日)
子どもと共に捧げるミサ	27 日 (日)
信徒大会	27 日 (日)



2013 年 1 月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1

Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

2013 年 1 月 6 日

The Virgin in Prayer (Giovanni Battista Salvi da Sassoferrato)

信仰年にあたって信仰を深める

主任司祭 小林 陽一



信仰年 2012
2013

新年あけましておめでとうございます。

2012 年から 2013 年に年が変わってまいりますこの時、カトリック教会の中で発表された「信仰年」について考えてみたいと思います。

ベネディクト 16 世教皇様は、第 2 バチカン公会議開幕 50 周年の 2012 年 10 月 11 日から 2013 年 11 月 24 日の「王であるキリスト」の祭日までを「信仰年」とするという発表をいたしました。2012 年 10 月 11 日という「信仰年」開始日は、「カトリック教会のカテキズム」発布 20 周年を記念する日でもある、とのこと。また、2012 年 10 月にベネディクト 16 世教皇様が開催された世界代表司教会議総会（シノドス）のテーマは、「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」でした。

「信仰年」の目的とするものは、次の 3 点です。

- ① 第 2 バチカン公会議開幕 50 周年を記念する日を心に留め、信仰を自らのものとする。
- ② 「カトリック教会のカテキズム」発布 20 周年を記念する日を心に留め、信仰の教えを自分のものとする。
- ③ 2012 年 10 月のシノドス（世界代表司教会議総会）で考察された新しい福音宣教を理解する。

（交わりとしての教会の理解）

以上の内容は、教皇ベネディクト 16 世の自発教令『信仰の門』～「信仰年」開催の告示～をご参照ください。「信仰年」については、日本カトリック司教団の「信仰年」メッセージ＜信仰の恵みを見つめ直す旅に招かれて＞をご一読ください。聖書や感謝の祭儀に併せて、第 2 バチカン公会議の文書「カトリック教会のカテキズム」を学びながら、少しでも信仰を深めたいものです。

この新しい一年がよい年となりますようお祈り申し上げます。



日	曜	典 礼	ミ サ	備 考
1	火	神の母聖マリア	祭日ミサ (10 時)	
4	金		初金ミサ (10 時)	掃除
5	土		主日ミサ (18 時)	
6	日	主の公現	主日ミサ (9 時)	
12	土		主日ミサ (18 時)	掃除
13	日	主の洗礼		
19	土			
20	日	年間第二主日	主日ミサ (9 時)	聖堂清掃 (C,D 地区)
26	土			掃除
27	日	年間第三主日	子どもとともに捧げるミサ (9 時)	ミサ終了後に信徒大会



12月24日、25日のクリスマス茶話会は和やかな雰囲気の中大勢の方にご参加いただきありがとうございました。

ベトナムの方々には美味しい料理を作っていただきまして心より感謝申し上げます。

皆様と共に主のご降誕をお祝いすることができました。

(行事G 中村幸子)



12月24日の
泉区民クリスマスに
参加しました！

～ 中和田の風 ～

人生は祈りかつ働くこと

— 神からの恵みは十倍も百倍も —

いつも教会のイベントで美味しい豚肉を惜しみなく提供してくださり、また一家ぐるみで教会の整備、修繕にご奉仕してくださる武田さん一家のご主人武田安光さん（79才）にお話を伺いました。

受洗されたきっかけは

宮崎県の半農、半漁の貧しい家に生まれ、その上身体がとても病弱で生まれたことを恨んでいた。しかしその病がきっかけで17才の時、熊本の病院でカトリック信者の看護婦さんに出会い18才で受洗するにいたった。洗礼を受けてからは良き仲間に恵まれ、信仰にすがりたい、信仰をものにしたい一心で暗記するほど聖書を勉強した。その頃から病弱だった身体も次第に良くなっていった。

家でお子さんを育てるにあたって信仰をどのように伝えましたか？

子どもは神様からの預かりものだから「働けるようになるまでは親に従いなさい」と伝えてきた。その代わり高校になったら何ひとつ門限でさえ干渉したことはなかった。また中学校までは毎晩ロザリオのお祈りをして子供たちに聖書を朗読させた。

いつも美味しい豚肉をご提供いただきありがとうございます。

私の持ち物は何一つない、罪以外は全て神からの授

かりもの。豚もちろん神さまからの授かりものだから、必要な所、必要な人と分かち合うのはあたりまえのこと。人にあげたらあげただけ、それ以上に神様からの恵みが何十倍にもなって返ってきますよ。

どんなお祈りをされていますか？

寝ている時以外、仕事をしている時もほとんど祈りを口ずさんでいる。自分のみじめさ、つまらなさを思い「神に感謝」「主よ憐れみたまえ」「わたしの罪をおゆるしください」と祈る。特にこの頃は体の衰えを感じ始めており、お祈りの時間が長くなってきたように思う。神様はすべて私の思いをご存じだから特にお願いの祈りはしません。

どのように未洗者の方に信仰を伝えたいと思いますか？

口でおこがましいことを言うよりも親切にするなど行動で示したい。



去年一年を振り返って

去年一年を振り返って今年の活動の課題を考えてみたいと思います。

まず第五地区のリーダー会は研修会を積むことによって第五地区の教会同士の繋がりが出来上がり、来年度の計画もある程度進んでいます。今後は中和田教会の後継者を育てていく必要があると思っています。

中高生会においては部活等で子供たちが集まらないことは何処の教会も同じ悩みを持ちながらいまだに解決策がないのが実情です。しかし何もやらなければ何も生まれてこないし、どこに問題があるのかも分かりません。去年から土曜日午後六時から的主日のミサにあずかりその後に集会を持ったところ日曜日の集会より集まりが良いことがわかったので、これについては三カ月に一回の割合で続けていこうと思っています。今後は中高生が何を思い、考え行動しているのかを考慮し、子供たち全員が興味を持てるテーマを決めて一年間活動しようと思っています。今の中高生たちに何かを教え伝えていくためには、子供たちの意見をよく聞いて話し合い、自分自身もしっかりと勉強をしなければならないと考えています。

去年は反省することが多い一年でしたが、今年は一粒の種でもまくことができ、そこから根が出てくれればと思います。それにはどうしたらよいか宣教部として話し合いをしていきたいと思っています。これからも神父様のご指導をよろしくお願い致します。

(宣教G 井上昭男)

大通り公園炊き出し支援活動への協力

神の愛を証しする活動の一つとして、横浜大通り公園で週に3回炊き出しによるホームレスの方々の支援をしている太田ガーリーさんに協力してきた戸塚教会の活動に賛同して、中和田教会でも協力活動を始めて今年で3年目を迎えます。

皆さまが寄せてくださった支援金でお米を購入し(お米を直接出してくださる方もあります)、毎月戸塚教会のバーク神父様にお届けし、そこから太田ガーリーさんに届けられる仕組みになっています。今年は、お米だけでなく、畑グループのご協力で野菜も届けることができ、カレー、おにぎり、みそ汁などの提供に役立てられたということです。さらに、復活祭やクリスマスの時期には、カレー用にお肉を提供してくださる方もあって、これもお届けしたいへん喜ばれています。

最近はお米もだんだん値上がりして、お届けする量が減りがちで心配をしていると、いつの間にかまた提供してくださる方があって、ずっと続けることができます。神さまのお計らいを感じます。

このような皆さまのご協力に対して、バーク神父様からはご丁寧な感謝のお手紙も頂いています。

このような活動をとおして、寒空のもとで過ごされる方々に、ひとときでも身心ともに温かさを感じていただける機会が増えることを願わずにはおれません。今後とも皆さまと共にこの協力活動が続けられるようお願いながら、これまでの経過をお知らせさせていただきました。

(福祉G 中島喜美子)

『典礼と生花の会』主催の黙想会

去る11月3日に、さいたま教区・上福岡教会にて“生花、聖書朗読、音楽による信仰”をテーマにした黙想会が開催され、中和田教会からも4名が参加しました。

フルートとシター(注)の即興演奏による美しいしらべのなかで活けられた花は、「受胎告知」、「エリザベトの訪問」、「ルドビコ茨木の信仰」を形にしたものでした。



心の深淵に触れる思いをされた方も、多くいらっしゃったと思います。

これからの課題も含めて、学ぶことが多い、感慨深い黙想会でした。

(小野 和江)

(注)

シターを演奏された方は、有名なオルガニスト パリ・エルサレム会のブラザー ダミアン原田でした。



受胎告知

『信徒の会』12月度例会より(12月16日)

12月の例会は16日(日)ミサ後に行われましたが、当日は「ゆるしの秘跡」を受けられる方が多く、開始が少々遅れて始められました。

この日、11月に転入して来られたばかりの小林さんも、誘いに応じて顔を出してくださり、自己紹介ではたいへん興味深く、また貴重な体験を披露してくださいました。すっかり馴染まれた様子で、仲間のよい機会になっていただけたのではないのでしょうか。

委員会報告の後、22日(土)夕方開催の忘年会の打ち合わせや、来年に向けてのみなさんの希望などをお聞きしたりしました。来年はハイキングや巡礼もいいですね・・・などの声がありました。新しい年も、よい交わりの場として、益々参加する方が増えていきますようにと願っています。(詳細は決定次第お知らせします。多数のご参加をお願いします)

(岩崎 好愛)



委員会だより

(文中敬称略)

△12月9日(日) 11名出席▽

■神父様の話

・「ゆるしの秘跡」は以前の罪の種類とその数の告白に重点を置いた「告解の秘跡」に比べ、神からのゆるしの恵みをいただく事にポイントがおかれている。「ゆるしの秘跡」は生涯、絶え間なく続けられる回心の行為として神の言葉の朗読、祈り、励ましの中にゆるしの恵みがもたらされるものとしている。

・なぜ共同回心式をするのか「ゆるし」の恵みは教会全体(教会の奉仕)を通して神から与えられるものである。一人の罪は共同体を傷つけるが、回心の際に神のことがばを聞き共に反省することで互いに助け合うことができる。このため個別告白を伴う共同回心式及び、回心の祭儀が導入された。(カトリック儀式書・ゆるしの秘跡に依る)

■スケジュールの確認(岩淵)

・お知らせカードを(降誕祭、新年ミサ等)100枚作り作成して聖堂の後ろに置いておくので持ち帰って頂き、ご近所や知人の方々を案内するために利用してほしい。

■月修資料

・「新しい福音宣教のためのミサ」式文を信仰年に関わる行事、ミサに使用するときがあれば使ってください。(小林神父)

●典礼(大宮)

・1月13日(日) 成人のお祝いについて
―該当者がいるか(総務で)調べミサ後に呼びかけ応募してもらう。該当者がいない場合は例年通り共同祈願でお祈りする。

●財務(甲斐)

・バザー収益の福祉関係の寄付についてはどこに對してするか内容を委員会に書面で提示してほしい。―了承(中島)

●建物/修繕

・新規購入ガスファンヒーター(集会室)、湯沸し器(新集会室)、エアコン(2階神父様の部屋)

●宣教(石井)

・中高生会―12月8日(土) 18時ミサ後、神父様にクリスマスの意義について講話を聞き分かち合いをする。

●福祉(中島)

・マザーテレサの修道院へ送るシートを作るための布切り作業はインドでの税関で税金がかかりすぎるため送付が中止になったので、当教会での作業も中止とした。集まった残りの布はウエスとして聖母の園で利用してもらう。

・寄付は例年のように、カリタスジャパン、心のともしび、いのちの電話、旅路の里、山谷等を予定している。バザーの残品衣類を教会前で売ったところ3千円余りの売上があったので東北の被災者の方々への冬の防寒着を送る送料に充てる。

●要理(保科)

・12月24日、6時半からの歌と朗読を練習している。

・来年度も交代制とし窓口は森脇さん
・初聖体:該当者2人 6月2日キリストの聖体の主日に予定している。担当は森脇さん

●行事(大宮絢)

・24日ミサ後 新集会室にてサロン形式で行う
・25日 集会室にてお茶

●広報(今井) 原稿依頼

■討議事項(上野)

・中古エレクトーン寄付の申し入れがあったので新集会室に入れて子供たちが触れることができるようにする。
・合同堅信式―戸塚教会での受け入れは可能であるとの回答があった。
今後は堅信式該当者があるとき正式にお願いするのか決定する。

・信徒大会 1月27日

・資料作り等、担当は1月の委員会で決める。

・現状では委員の後任は自分で探すことになっているが長期間やっておられる方もいらっしゃるので最低限ルール作りが必要ではないか
―要検討

・防災・地震対策

・特別会計で検討するのはどうか(甲斐)
・専門家の意見、アドバイスを受けられることも必要ではないか(上野)
・防災委員会を募ってはどうか(岩淵)
―委員会で話し合った内容で信徒大会に投げかけることとする。

(次回委員会 1月13日)

以上

教会からのお知らせ

■訃報

カタリナ 井上君子さん

12月19日に帰天されました
謹んでご冥福をお祈り申し上げます
(総務グループ)



上野委員長のコラム

あけましておめでとうございます。

今、当教会も一般社会と同様に、信徒の高齢化が進んでおりますが、昨年の教会運営に関して感じたところを述べさせていただきます。

高齢化社会の到来が強く言われ始めた約20年も前に、私は壮年会会長をしていました。たまたまその年の「なかわだ」新年号に、当教会もこれを見越して対処する方策を考えておかねば、近い将来に教会運営が立ち行かなくなるだろうと書いたことがありました。

しかし最近、教会運営全般における皆様の活動振りを拝見させて頂いていると、この懸念は取り越し苦労であったかなと思わされております。

例えば、昨年バザーが開催され、例年通り盛会であったことであります。当初は、高齢化が主な要因で開催か否かが議論された程でありました。ところが、案ずるよりは産むが易しで、決して若い人ばかりとは言えない行事委員の皆様、懸命のご尽力と信徒の皆様の多大なご協力により、これを成功させることができました。中和田教会の信徒の皆様、強い信仰に裏打ちされたパワーを見せられた思いがしました。

高齢化社会はまさに現実のもので、これを嘆いてばかりいても仕方がありません。皆で力を合わせて、前向きに進んでいきたいものです。
本年もよろしくお願い致します。

以上

